

仙北市の花まつり

角館の桜まつり 咲き誇る桜に魅了

4月20日から5月5日まで、角館の桜まつりが開催されました。初日には、開幕に先立ち松木内川堤前の特設会場でオープニングセレモニーが行われ、関係者による鏡開きやおやま囃子が盛大に披露されました。

開幕当初はつぼみだった武家屋敷通りのシダレザクラは25日、松木内川堤のソメイヨシノは26日に満開を迎え、全国から綺麗に咲き誇った桜を一目見ようと多くの観光客が訪れ、色づいた桜を堪能していました。



オープニングセレモニーでは、おやま囃子が披露され、桜まつりの開幕をお祝いました。



角館榊細工伝承館前では、色づいたシダレザクラの前で記念撮影する多くの観光客の姿が見られました。



暗闇に浮かぶライトアップされた桜は、幻想的でその美しさに息をのみます。



古城山からの眺望。ライトアップされた松木内川堤の桜のトンネルが浮かびあがります。

刺巻水ばしろう祭り

白と緑のコントラスト

田沢湖の刺巻湿原では、4月7日から5月5日まで刺巻水ばしろう祭りが開催され、連日多くの観光客が訪れました。訪れた多くの観光客は、木製の歩道をゆっくり散策したり、雪解け水の中の愛らしい花々をカメラに収めたりするなど、水ばしろうの白と緑のコントラストを楽しんでいる様子でした。



ハンノキ林に囲まれた約3ヘクタールの湿原に、水ばしろうが一面に咲き誇りました。

かたくり 群生の郷

薄紫色の絨毯



規模・密度ともに日本最大級といわれるかたくり群生の郷。20ヘクタールの広大な敷地に可憐な花が広がりました。



4月18日から5月3日にかけて、西木町の八津・鎌足のかたくり群生の郷が開園しました。西木町の特産品「西明寺栗」の栗園に、薄紫色のかたくりの花が一面に広がり、連日多くの来園者を楽しませました。

第10回 秋田民謡全国大会 民舞の部 秋田仙北会高橋キヌ子社中が優勝

4月14日、大仙市協和市民センター・和ピアで「第10回秋田民謡全国大会」(秋田県民謡協会主催)が開催され、民舞の部に出場した秋田仙北会高橋キヌ子社中の桜組が「生保内節」で見事優勝を果たしました。また、同じく桃組が「秋田おぼこ節」で第3位となりました。



前列左から佐藤かおりさん(桜組)、佐川葵さん(同)、大石凜夏さん(桃組)、神代小4年、高橋真緒さん(同)、生保内小6年、鈴木結愛さん(同)、角館小4年、後列左から高橋翔愛さん(桜組)、角館高校1年、佐川和花さん(同)、高橋キヌ子先生、佐々木菜奈さん(桜組)、神代中1年、川越聖喜さん(同)、角館中3年、川越聖来さん(同)。

アルペンスキー世界大会「ウイスラーカップ2019」 男子回転で鎌田宇朗君(角館中2年)が準優勝

4月11日〜14日にカナダのウイスラーで開催された国際スキー連盟(FIS)公認の16歳以下のアルペンスキー大会「ウイスラーカップ2019」に角館中学校2年の鎌田宇朗君が日本代表として出場しました。

「世界大会で各国の選手を見て、これまでに以上に練習に励まなければいけない」と思った。目標としている全国中学校スキー大会での優勝に向けてとてもよい経験になった」と話しました。

鎌田君は、U14(14歳以下)のカテゴリに出場、世界各国のトップクラスの選手たちと競い合い、大回転で4位、回転では見事準優勝を果たしました。



回転で準優勝の鎌田宇朗君。



表彰式で喜ぶ鎌田君(左)。

春の火災予防運動
駆け付け訓練

4月7日から13日まで「春の火災予防運動」が実施され、最終日には、仙北市管内3か所で開催された訓練が行われました。
この訓練は、火災発生時に消防団員が迅速に災害現場へ駆け付けられることができるよう、毎年行っているものです。
これから気温が高くなる時期は、空気の乾燥により火災が発生しやすい気象状況となります。安全第一を心がけ、火気の取り扱いには十分に注意しましょう。



西木地区（松木内川河川公園）で行われた駆け付け訓練。



こまち娘に変身して
折笠 靖子



こまち娘に扮した折笠さんとなまはげに変装した地域おこし協力隊の播磨さん。



活動を行った皆さんで。

皆さん、こんにちは。
新緑も深まり目にも心にもよい季節になってきましたね。内陸線活性化担当の協力隊として着任して1年10か月、まだまだこの雄大な自然に感動の毎日を送っています。
桜まつり初日の4月20日、角館駅前「落とし物、お忘れ物の注意喚起、盗難被害防止、何かあったら110番に連絡して」と4か国語で

書かれたティッシュやチラシを観光客の方へ配りました。
この活動は角館駅前交番、他近隣駐在所、仙北市防犯指導隊、仙北市防犯協会角館支部、仙北市角館防犯巡回隊の方々と行ったのですが、ただ配るだけではつまらないということで、地域おこし協力隊は秋田名物のなまはげとこまち娘に変身しました。なまはげは地域おこし協力隊の

播磨靖之さんと角館交番所長の竹谷さん。こまち娘は私と角館交番の小島さんです。秋田の方からすれば、なまはげは男鹿でこまち娘は湯沢だろうと思われるかもしれませんが、県外出身の私たちからみると秋田県全体のイメージです。私もここに住むまでは、秋田にはなまはげがどこにでもいるものだと思っていました。
角館の桜や西木のかたくり、刺巻の水ばしよの時期ともあって、JRも内陸線も大盛況、角館駅前は大くさんの観光客で賑わっていました。このスタイルはやはり目を引くのか、「一緒に写真いいですか?」と何回もいわれました。こんなに一緒に写真撮ってくれといわれたのは人生初めてかもしれません（埼玉県出身のこまち娘だったことは秘密です）。ティッシュは1時間もたらずに200個配り終え、大盛況に終わりました。

2月に角館駅前で行ったミニコマから引き続き、2回目の角館駅前歓迎イベントを開催することができました。これからも微力ながら、自分も楽しみつつ地域の方々と一緒に何かできたらなと思っていますので、温かい目とご協力をぜひよろしくお願い致します。

市長の
まちづくり
No.150
日記

『友だち100人?』

仙北市長 門脇 光浩

5月中旬になりました。これまで入学や、転勤、引っ越しなどで、気を張っていた皆さんが多いと思います。連休が明けてみたら、疲れがドッと出て動けなくなったり、急な農作業で体調を崩したり、様々な症状が出てくるものも今ごろです。無理をしないでください。

さて、学校がつまらない、クラスや職場に嫌いなタイプの人がいる、それで何だか足が進まない…。誰もが経験したことではないでしょうか。人間ですから好き嫌いがあって当然です。くよくよ考え込みます、趣味で息抜きをしたり、気の合う友だちとの会話で元気を回復してください。大丈夫ですよ。

そういえば、子どもの入学式だったでしょうが、昔、「一年生になったら」の唱歌で、友だち100人できるかなと歌った記憶があります。私も市長になりたての頃、入学式でのあいさつが、「たくさん友だちをつくらなくて、毎日楽しく過ごしてほしい」とお話をしていました。たくさんは幅のある言葉です。実際に100人と友だち関係をつくらなくても、その友だち関係を維持するに相応に大

変です。友だちが100人いなくたって、1人だって2人だって、本当に心を通い合える人がいたら、それで幸せだと思います。
同じように、数が多ければよいと思われていたり、大きければ立派という考え方は、今は通用もしない。必要もない場面が多いように感じます。先日、ある知人が「仙北市の春はとても魅力的。でも観光客が多くて訪ねる気になれない」といっていました。この言葉はショックでした。もちろん観光客の入込数が増えれば嬉しいのですが、一人ひとりの満足度を高める対策、さらに地域に経済循環を起こす仕組みの充実、そんな視点をもちと大切にすることが必要だと、今回のあきた花紀行を振り返っています。
そんな風に考えたら、移住・定住対策も別物に見えてきます。都会での移住フェアも実績を上げていますが、何よりも、すでに仙北市に住んでいる市民の皆さんから「仙北市はいいよ」といってもらいたいことが一番です。そうしてもらえない行政サービスを提供することが、基本中の基本です。

かくのだてフィルムコミッション
ロケーションだより

Kakunodate Film Commission

かくのだてフィルムコミッション
(仙北市観光課内) ☎ 43-3352
<http://kakunodate-fc.jp/>

かくのだてフィルムコミッション(以下FC)は、時代劇映画「たそがれ清兵衛」のロケ支援をきっかけに2002年12月に活動を始めました。「隠し剣鬼の爪」や「釣りバカ日誌15」のロケ支援の機会に恵まれ、幸先よいスタートを切りました。最近は大きな映画などのロケ支援の機会を得ることの難しさも感じています。

県外に目を向けて見ますと、隣の岩手県の盛岡広域FCの活動が勢いを増しています。ロケ支援を行なった内館牧子さんのベストセラー小説を映画化した「終わった人」(館ひろしさん主演)が全国的に話題になり、昨年、ジャパンフィル

ムコミッションのJFCアワード優秀賞も受賞しました。WOWOWのドラマ撮影もFCが全面協力して進んでいるようで、この夏に放映の予定です。
このような活発な活動を目指し、かくのだてFCも初心にかえって活動を行い、地域に波及する映像作品のロケ支援を行いたいと考えます。
桜の季節にも、いくつかの撮影支援をしました。放映日が決まったらお知らせします。今年は事務局が2人体制になり、さらに精力的な活動が期待されます。皆さまのご協力をよろしく願います。

(会長 坂本 洋)



盛岡広域FCのJFCアワード受賞風景。